令和６年度　由布市立挾間中学校　総合的な学習の時間　全体計画

【幼・小・中・高１３年間を見通した

『由布学』の取組】

○「由布の『人』『もの』『こと』に触れ、

地域の人々の思いや願いを受け止める

ことのできる心情豊かな“由布っ子”」を育成する。

○「由布市の魅力を情報発信できる地域 のリーダーとして、地域に貢献できる自立した“由布の人”」 を育成する。

○幼・小・中・高１３年間を見通した「由布の地域学」で身につけさせたい資質・能力の系統表に基づいた取組を行う。

【生徒の実態】

○あいさつがよく、活動的である。

○授業態度等、落ち着いている。

○素直だが、依存的傾向もある。

○深く思考したり粘り強く取り組んだり

する点に課題がある。

【学校の教育目標】

**自己実現をめざし、地域と豊かな未来社会に貢献する生徒の育成**

　　〔知識・技能〕

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、自分のものとして活用できる能力の育成

〔思考・判断・表現力〕

生徒自らが思考を広げたり深めたりしながら、新たな知識や価値を創造する能力の育成

〔学びに向かう力・人間性等〕

学んだことを自分や生活との関わりで捉え、生活や生き方に役立てようとする態度の育成

【地域の実態】

○人口増加地域で、活気がある。

○新しい住宅も増え、保護者の考えも

多様である。

○学校教育に対する理解があり、協力

的である。

【総合的な学習の時間の目標】

各教科を横断的に結び付け、探究的な見方・考え方を働かせることで、地域の人・もの・

ことについて、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えること

ができるようにする。

1. 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の特徴や

よさに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2) 地域の課題を見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付け、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現 する力を身に付ける。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自らの行動を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

【保護者の願い】

○豊かな人間性（やさしさ・思いやり）をもった子どもづくり

○学力の向上・体力の向上

○安全・安心な環境づくり

　　　　　　　　　【 内容･・・目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力 】

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学年 | | 第１学年 （５０時間） | | 第２学年 （７０時間） | 第３学年 （７０時間） |
| 探究の  テーマ | | ふるさとに学び、ふるさとと自己の未来をつなごう | | | |
| 由布市(挾間町)の今に学び、よりよい挾間町の  将来を探ろう | | 由布市の未来を描き、発信しよう | ふるさと『由布』と自分のつながり方を考えよう |
| 育成を目指す具体的な資質・能力 | 知識及び技能 | ・地域の特色や魅力、地域の産業・職業について知  る。  ・訪問活動などのインタビューを通して地域で働く人  や生活する人の願いや課題について知る。  ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の  過程に応じた技能を身に付けている。 | | ・地域の魅力や強みを明らかにし、課題の解決策を探る  ことができる。  ・地域とともに生きる人（ゲストティーチャー）の話や  　思いをもとに、由布市の未来を描くことができる。  ・情報を多面的にとらえ、考えを具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。また、由布市の未来像を発信することができる。 | ・地域の人々の暮らしと地域が抱える今日的問題や将来  的な課題について、社会のしくみや政治と関連付けて考える。  ・働くことの意義や価値について、体験的活動を通して  知るとともに、自分の生き方と地域との関わり方を考える  ことができる。  ・情報を構造化する、抽象化するなど、探究の過程に応じ  た技能を身に付けている。また、自分の考えを発表する  ことができる。 |
| 思考力・判断力・表現力等 | 課題の設定 | ・自分たちを取り巻く地域の現状に広く目を向け課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。  ・キャリア学習の場面をとらえて、地域の人々の思いを知るとともに自分の生き方を考えている。 | | |
| 情報の収集 | ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集し適切な方法で蓄積している。  ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択している。 | | |
| 整理・分析 | ・問題状況における事実を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。  ・事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析している。 | | |
| まとめ・  表現 | ・調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。  ・国語科や外国語科等で身に付けた技能を活用して表現している。 | | |
| 振り返り | ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとしている。 | | |
| 学びに向かう力・人間性等 | 主体性 | ・自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 | | |
| 協働性 | ・自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 | | |
| 自己理解 | ・探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の個性やよさを理解しようとしている。 | | |
| 他者理解 | ・探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重している。 | | |
| 社会参画 | ・探究的な活動を通して、進んで地域の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとしている。 | | |

【指導体制】

・学年指導体制の強化を図るとともに

全校指導体制を組織する。

・運営委員会における校内の連絡調整と

指導体制を確立する。

・由布学担当からの教職員研修を重視し

　研修やキャリア教育について共通理解を図る。

・地域学校協働活動推進員などとの連携を深めるとともに地域の教育資源のデータ化を進める。

【指導方法】

・生徒の課題意識を連続、発展させる

支援と工夫を行う。

・個に応じた指導の工夫を行う。

・体験活動を重視する。

・言語により整理分析したり、まとめ

表現したりする学習を重視する。

・協働的な学習を充実させるため、

思考ツールを積極的に活用する。

【学習評価】

・中高連携した学習の記録やキャリア・ノートを有効活用する。

・観点別学習状況を把握するための評価規準

を設定し、指導と評価の一体化を図る。

・個人内評価を重視するとともに、自己評価や

他者による相互評価の充実を図る。

・授業分析による学習指導の評価を重視。

・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、

次年度の計画に生かす。

【学習活動】

・地域の実態、生徒の実態を踏まえ、

探究課題を設定する。

・地域の人、もの、ことを生かした学習

活動を行う。

・学習成果を表現する場として文化祭

を活用する。

・進路学習、キャリア教育の視点を踏まえ

３年間の見通しをもった学習活動に取り組む。

【各教科等との関連】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　【小学校や近隣の中学校、進学校との連携】

【近隣の小学校との連携】

・小学校での学習内容、育成された資質・能力の系統性を確認する。

・中学校説明会(小中交流会)を通し、中学校の学校生活（「総合的な学習の時間」の取組を含む）を校区内の６年生に紹介する。

【中高連携】

・由布高校との「中高連携した学習記録」を通して、中学校での総合的な学習の時間の目標、内容等を共有する。

【由布市議会・由布市役所との連携】

・由布の学び検定との連動

・「総合的な学習の時間」の発表の場の設定(文化祭行事など)や市長、議長などの関係者との懇談会などの伝える場の設定など。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 各教科等 | 道徳教育 | 特別活動 |
| ・学ぶ意欲と傾聴する力の向上  ・探究的な学びの素地を養う。  ・協働的な学習場面の設定  ・わかる授業、活気のある授業  の展開  ・知識及び技能の確実な習得  と活用 | ・道徳科の時間を要として、  思いやる心を育む。  ・指導の重点項目  「真理の探究、創造」  「思いやり、感謝」  「社会参画、公共の精神」  「相互理解、寛容」 | ・集団活動に自主的、実践的に取り  組み、互いのよさや可能性を発揮  しながら、集団や自己の生活向上  のための課題を解決する。  ・合意形成や意思決定できるように  する。  ・役割を分担して協力して実践する。 |